起業から生まれる 新産業の種

米沢には世界へ羽ばたこうとする企業がたくさんあります。今回はその一つ、山形大学工学部にあるナチュラルプロセスファクトリー株式会社を米沢商業高校２年の齋藤伶が取材しました。

Q1 ナチュラルプロセスファクトリーってどんな会社？

有機エレクトロニクスの光と流体力学の風によって農業の６次産業化に貢献するベンチャー企業です。ベンチャー企業とは、挑戦や失敗をしながら新しい技術を開発している企業のことです。

▲会社の内容や機械について説明していただきました。

Q2 どういう事業をしているの？

ナチュラルドライヤーという常温乾燥機の開発、販売しています。この乾燥機は流体力学という技術を応用して風を操り、庫内の温度を均一にさせるため、色・香りを維持したまま、安定した品質の乾燥食品を作ることができます。

▲ナチュラルドライヤー本体

Q3 製品を利用してどんなことをするの？

乾燥させた食品を粉状にして加工をしやすくしたり、市内のレストランなどともタイアップしたりしています。例えば、ブドウを房ごと乾燥させて、高級なレーズンを作ることも可能です。

▲乾燥食品の一例。手前からトマト、ニンジン、アスパラ

Q4 今後行っていく事業は？

今後は業務用で使う大型のナチュラルドライヤーや家庭用の小型の物を開発していく予定です。肉や魚などを乾燥できる物も考えています。また来年には、有機ＥＬ照明を使った植物工場を整備し、付加価値が高い野菜を栽培・販売する計画です。

▲説明してくださった城戸社長夫妻

城戸淳二社長からのメッセージ

若者でも、アイディアとやる気次第でベンチャーを始められます。しかし、たくさんの技術を学び、自分で動き回らないとできません。失敗を恐れずに夢を持ってチャレンジすることが大事です。

取材を終えて

「起業」ということに対して、自分には縁がないと考えていましたが、今回の取材を通して、誰にでもベンチャーはできるということを知りました。米沢を元気にするためにも、私たち、若者の起業が重視されていくのではないかと思います。（齋藤）

※このコーナーは７月７日から３日間就業体験をした齋藤さんが、取材から紙面編集まで行いました。

原中核工業団地」が完成し、電気機械関連企業が集まりました。皆さんの身近にあるノート型パソコンも、世界で初めて本市で作られました。

そして現在、山形大学工学部の城戸淳二教授が開発に成功した、白色有機ＥＬをはじめ、有機ＥＬ関連の先端技術を新しい産業にするため、日夜、研究や市場開拓が行われています。

このように新しい産業を産み出し続けてきた米沢。自ら起業することや新しいことに挑戦する精神がこの地で受け継がれています。

米沢豆知識

米沢は県内１位の工業都市

平成24年の工業統計調査によれば、本市の製造品出荷額等は5,370億円となっています。これは、東北地方の自治体では第６位であり、県内では平成２年からトップとなっています。

▲米沢八幡原中核工業団地